

一生の思い出

藍住中学校 吉井 珀翔

僕が今回、海外研修に参加しようと思った理由は、英語力を向上させ将来の夢に向かって国際的な感覚を身につけたい、日本では見られないような景色を見てみたいと思ったからです。出発する前に銀行で少し両替をし、日本の紙幣との違いにびっくりして祖父にオーストラリアドル紙幣を見せてあげると喜んでいました。羽田で



も両替をし、スムーズにできました。シドニーに到着しオペラハウスの内観を見ることができ、ガイドさんから設計と工学の説明を受け実際に足を踏み入れ、他では決して体験することができない経験ができ、とても感動しました。学校ではたくさんの友達ができ、休み時間はバレーなどをして体を動かして遊びました。初めは英語で話すことも書くこともできなかったけど、だんだんと日が過ぎるにつれ英語にも慣れ、インイン先生が何を言っているのかもわかってきました。文化交流では、僕がけん玉を使って、もしかめ、秘竜昇りけん、クラッチなどを披露すると周りから、歓声と拍手をもらって嬉しかったです。その後は家から用意してきたうちわを使って男踊りを披露し、鐘と笛の音に合わせてみんなで阿波踊りをしました。バディから、クール！ナイス！と声をかけてもらい徳島のアピールが出来たと思います。



ホストファミリーとの思い出はいっぱいあります。ビーチへ釣りに行った時には、時計とデジカメをビーチに落としてしまったけどホストファザーが家に帰ってからデジカメをなおしてくれました。別の日の学校帰りに買い物に行った後、ファミリーとKFCで食べたり、フットボールの試合を見に行ったりしました。休日にはワイルド

パークへお出かけし、たくさんの動物を見たりふれあったりコアラもカンガルーもかわいかったです。夜はホストファミリーの家で手巻きのお寿司を一緒に作ったり、ホストマザーが作る料理は最高においしかったです。僕はホストマザーに教えてもらったベジマイトとバターをパンにつけて食べるのが気に入り、お土産に買って帰りました。

最後の日の朝食の時間、なぜかさびしいのに一番おいしかったと感じていました。ホストファミリーと家族のように仲良くなり、楽しかった日々を思いだし、別れの時間がきた時にはとても悲しく、抱きあって別れのあいさつをした時にはホストマザーがサングラスごしに泣いていました。海外研修に参加し一番学べたことは人の心の温かさです。言葉の壁や英語の壁にあたることもありました。本当の家族みたいに接してくれるホストファミリー、一緒に頑張っていく友達、そして僕たちのことを見守り教えてくれる素晴らしい先生方がいたからこそ、いろんな体験や経験をすることができました。長いようで短いそんな 10 日間だったと思います。世界は広く自分の知らない文化や歴史、考え方がたくさんあるということを認識し、いろんな経験をさせてもらうことができ、添乗員さんや先生をはじめたくさんの方々を支えられて無事終えることができたので本当に感謝の気持ちでいっぱいです。かけがえのない一生の思い出になりました。ありがとうございました。

